

編集後記

◇中国の観光ブームを実感したのは、初めて「黄金週」(ゴールデンウィーク)が導入された一九九九年のメーデーの連休期間に、北京から泰山・曲阜旅行に出かけた時のことである。曲阜には八三年にも訪れたことがあるが、そのときの静寂はもはやなく、泰山も夏場の箱根のような賑わいだった。驚いたのは、帰りの北京行き列車である。東京の朝の満員電車並みの混みようで、取ってあった指定席にたどり着くまで数時間を要した。しかもその座席にはすでに子どもを膝に抱いた女性が座っていた。結局済南から北京まで立ち詰めだった。

ゴールデンウィークは、アジア金融危機以後落ち込んだ観光需要を喚起することが目的だったといわれるが、観光スポットの集中豪雨的な混雑のため、かえって消費が伸びないという現象も見られ、廃止論がくすぶっていた。昨年一月、ついに中国政府はメーデーのゴールデンウィークを廃止し、かわって清明節、端午節、中秋節などを祝日とする祝祭日の見直し案を提案した。これは、中国の大衆観光ブームが一つの曲がり角にさしかかったことを意味するのかもしれない。

◇本号は、従来の編集委員請負制ともいえない編集体制を改め、編集委員会が全体として編集にあたる方式を採用した第一号である。

中国21 Vol. 29

二〇〇八年三月三十一日発行

編集

愛知大学現代中国学会

発行人

馬場 毅

発売

風媒社

印刷制作

(株)あるむ

印刷

名古屋市中区千代田三十一二

電話

〇五(三三)三三二一〇〇八

電話

〇五(三三)三三二一〇八六

また、従来年三回刊行してきたが、人的バワリとの関係から二〇〇七年度から年二回刊行とせざるを得なくなった。一号減った分は内容を充実させて補うよう努力したい。なお、編集委員会は現在「現代中国学部創立十周年記念号」(非売品、本年六月刊行予定)の編集に鋭意取り組んでいる。(砂山幸雄)

愛知大学現代中国学部 <http://nachi-u.ac.jp/college/chin21.html>

中国21 編集委員会

(編集長) 砂山幸雄 安部 悟 梅田康子

古澤賢治 松岡正子 三好章 劉 柏林

吉川 剛(五十音順)

◇投稿原稿を募ります◇ 「中国21」は、新しい発想から現代中国をめぐる諸問題に切り込む、鋭敏の論考を広く募集いたします。現代中国に関するテーマであれば、そのジャンルは問いません。むしろ、既存の学問のジャンルを打ち破るような斬新な発想を期待いたします。募集の要領は左記の通りです。

①現代中国に関する論考(未発表のものに限る)。②四〇〇字語原稿用紙換算。論説、研究ノート、報告・ルポ、資料等③五〇枚程度、書評④二〇枚程度、エッセイ⑤一〇枚程度。③原則としてワープロで作成した縦書き原稿二部及びフロッピーディスクを提出。

◇表紙画募集◇ 「中国21」の表紙デザインに用いる絵画・写真を募集いたします。絵画については作品のカラー写真を、写真についてはプリントを御送付下さい。

送付先
〒470-0296
愛知県西加茂郡三好町黒笹三七〇
愛知大学現代中国学会
☎〇五(六)三六二一三二四
FAX 〇五(六)三六二五五二六

投稿規程の詳細は現代中国学会室までお問い合わせ下さい。採否は、編集委員会の検討を経て決定し、採用にあたっては規定により薄謝を呈呈します。なお、応募された原稿及びカラー写真等は、採否に関わらず返却いたしません。